

7. 短報

1. 松岡資明氏の『アーカイブズが社会を変える—公文書管理法と情報革命』平凡社新書の刊行

2011年4月に外邦図研究会にも出席していただいていた松岡資明氏（日本経済新聞文化部）の『アーカイブズが社会を変える—公文書管理法と情報革命』が刊行された。松岡氏は記録としての公文書に一貫して関心をよせ、2010年1月には『日本の公文書—開かれたアーカイブズが社会システムを支える』（ポット出版）を刊行されている（外邦図研究ニューズレター7号、80-81頁を参照）。今回刊行された新書版は、その続編とも言えるもので、その構成を以下に示す。

まえがき

第1章 遅れた国ニッポン

第2章 アーカイブズの宇宙

1 耳目集めた「天草アーカイブズ」

2 「エル・ライブラリー」の挑戦

3 日本文化の源流をさぐる「仏教資料文庫」

4 外邦図の世界

5 北海道開拓と囚人

6 東京電力「電気の史料館」

7 世界有数のデジタル・アーカイブズ「アジア歴史資料センター」

8 山口銀行「やまぎん史料館」

9 逆境に立ち向かう「日航アーカイブズセンター」

第3章 資料保存の危機

第4章 公文書管理法で何が変わるか

1 成立までの経緯

2 公文書管理法とは何か

3 その課題

第5章 社会に欠かせぬアーカイブズ

第6章 課題と展望

1 いかに多様な記録資料を保存するか

2 「MLA 連携」

3 著作権問題

4 人材育成

5 アーカイブズを支える市民の力
あとがき

今回も外邦図をとりあげ、この間の研究の進歩の紹介とともに、その課題についても指摘していただいた。私たちは外邦図を学術資料と考えても、公文書と考える視点はあまりもっていなかった。今後はこの視点からも積極的に外邦図を位置づけ、保存と活用をはかっていくべきと考えられる。とくに「アジア歴史資料センター」が公開している資料と外邦図は兄弟関係にあり、両者の関係を整合させていくべきであろう。

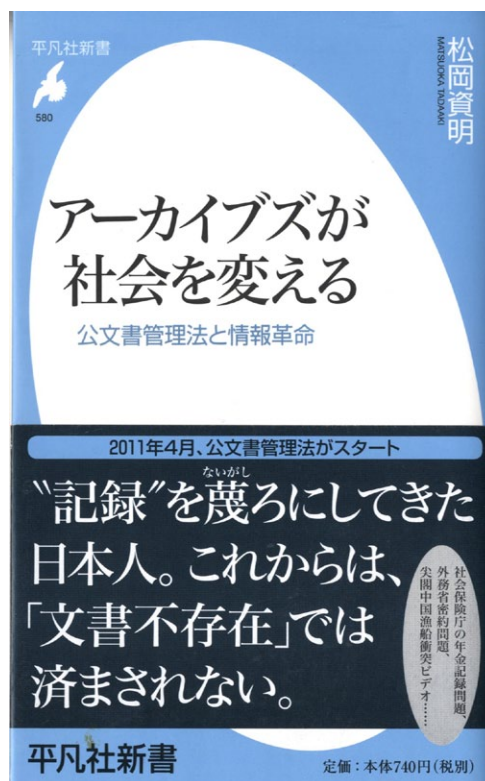


図1：『アーカイブズが社会を変える—公文書管理法と情報革命』表紙

2. 牛越国昭氏の『対外軍用秘密地図のための潜入盗測—外邦測量・村上手帳の研究、第二編 村上千代吉の測図活動 外邦測量の実際』同時代社の刊行

2011年10月に牛越国昭氏の『対外軍用秘密地図のための潜入盗測、第二編』が刊行された。第一編同様の大部の著作（全489頁）で、今回は副題のとおり村上千代吉の測量活動の追跡となる。村上手帳

の写真のほか、関係地図も各所に掲載されている。
以下、目次を示す。

はじめに 凡例 地図・写真の出典
序章 外邦測量人生のはじまり
第1章 日露戦争末・戦後期に朝鮮北部、中国東
北南部を測図
第2章 広域の測図実施と大きな犠牲——一九〇七
年度
第3章 強引な「満州」・内モンゴル測図と華南
測図への変更
第4章 秘密強化のための分班体制をとった〇九
年度測図
第5章 一九一〇年度は福建・広東で特別略測図
を展開
第6章 秘密測図の最中 辛亥革命起こる——一九
一一年
第7章 一九一二年度 臨時測図部最終年の内モ
ンゴル測図
第8章 新体制に移行し、華南地方を潜入盗測
第9章 一九一三年度第二次と一四年度 華南測
図の継続
あとがき 年表

村上千代吉の測量人生が、台湾で土地調査局の雇員
になったところからはじまるのは、外邦図の歴史と
いう点からも興味深い。これによって彼は測量技術
をマスターしたのであろう。またその後、臨時測
図部（第二次）、さらには1913年以降の「外邦測図
班」への参加というかたちで、徐々に秘密測量に深
く従事していくのは、村上の能力やパーソナリティ
ーとどのように関係するのだろうか、興味は尽きな
い。なお、本書の記述は細部におよぶが、外邦図作
製の大きな流れを小林茂『外邦図—帝国日本のアジ
ア地図』（中公新書 2119）で補いながら読み進め
ると、よりわかりやすいのではないか、と思われる。
つづく第三編の刊行が待たれる。

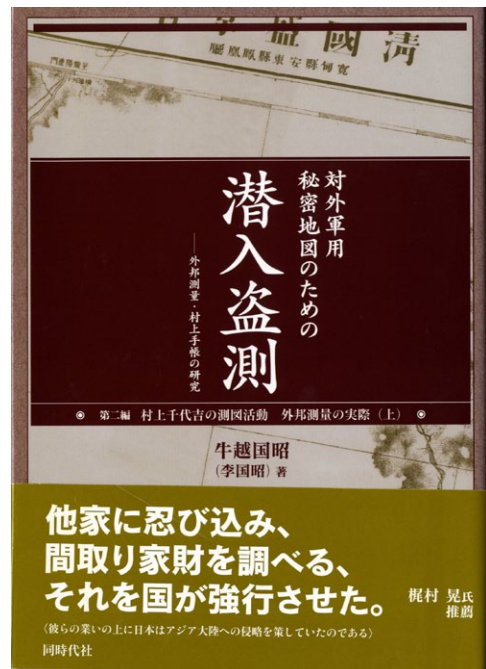


図2：『対外軍用秘密地図のための潜入盗測—外
邦測量・村上手帳の研究、第二編 村上千
代吉の測図活動 外邦測量の実際』表紙

3. 『地図で知る日露戦争』の刊行

紹介が遅れたが、2009年11月に、地図で知る日
露戦争編集委員会・ぶよう堂編集部編『歴史文学地
図 地図で知る日露戦争』ぶよう堂が刊行されてい
る。NHK ドラマの「坂の上の雲」の放映に合わせ
たもので、一部では、加工が加えられているが外邦
図も使われている。本書をご紹介下さった（株）地
理情報開発の篠崎透氏に感謝したい。